



記入日 2012 年 1月 17 日

1. 概要

実践団体名	茅ヶ崎トラストチーム		
連絡先	担当：久能利香 09072552555		
プランタイトル	茅ヶ崎まるかじりプロジェクト「The サバイバル 2011」		
プランの対象者※1	幼児～一般・社会人等	対象とする 災害種別※2	津波

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

①遊びの中で楽しみながら、協力すること、助け合うこと、分け合うこと、自分で考えることを経験する。 ②大人は支援する側として、子どもとの距離を測りながら、自らも学ぶこと・協力することを経験する。 ③地域で子どもたちの活動を行っている他団体と、緩やかにつながることで地域の防災力を高める。

【プランの概要】

- ①「浜っ子パーク」毎月1回、土曜日開催。防災要素を盛り込んだ内容とする。また、毎回配布しているチラシ（730世帯）にも防災についての内容を盛り込む。
- ②「Theサバイバル2011」に向けたワークショップの実施。
- ③体感と対話をテーマとした防災イベント「Theサバイバル2011」の開催。
- ④成果物としての年間活動報告書の作成

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ①開催場所は避難所となる学校の校庭である。子どもたちには身近な場所であるが、防災という別の視点で校庭を見ることにより、いざという時の不安の軽減につながる。
- ②学校の避難訓練・地域で行う避難訓練・スポーツ団体の安全対策などの情報を集めることから始め、情報共有の機運が高まる。

2. プランの年間活動記録 (2011 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	・地域他団体・小学校、防災対策課、教育委員会にプランの取り組みについて説明する 2日ミーティング	宝ヒントの作成等 チラシ作成	パーク「校庭の宝さがし」雨天のため 中止
5月	・PTA 総会にてプランの取り組み含めた活動の紹介 5日, 20日ミーティング	チラシ作成	パーク「校庭の宝探し&みどりのカーテン」雨天のため 中止
6月	18日連絡会議(子ども会、推進協、トラスト) 23日 PTA 会長打ち合わせ	チラシ作成	25日パーク「校庭の宝探し」
7月	PTA 委員会にて活動説明 23日ミーティング	チラシ作成	15日ワークショップ HUG 23日パーク「すなあそび」
8月	26日ミーティング		
9月	17日実行委員会 16, 23日ミーティング	チラシ作成	17日パーク「お月見」
10月	9, 21, 28日ミーティング 14日実行委員会 31日 4-3 担任と打ち合わせ		
11月	6日、22日 4-3 総合授業ゲスト 12日企画会議	チラシ作成	19日「The サバイバル 2011」
12月	4日ミーティング	チラシ作成 前日準備	24日パーク「しめ縄づくりとおもちつき」
1月	報告書作成準備	事前準備(7, 23日) チラシ作成	14日パーク「浜っ子風どんどやき」
2月	報告書作成		4日パーク「節分」
3月		チラシ作成	パーク「キッズマーケット」

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： ①】※3

タイトル	浜っ子パーク「校庭の宝探し」
実施月日（曜日）	6月18日（土）
実施場所	茅ヶ崎市立浜須賀小学校校庭
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	①避難所となる校庭の防災要素を知る。 ②他団体との防災情報の共有 ③大人の支援者がその場で作業を理解し、協力する ④いつも使っている校庭の中に非常時に使えるものがたくさんあることに気づく ⑤大人が学校避難訓練で避難経路・避難場所を確認する。（子どもたちは学校の避難訓練で理解しているが大人は意外と知らない）
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	「宝探し」 受付 ・できますカード（本部、見守り、エコカフェ）で支援者担当ふりわけ ↓ 活動 ①ヒントになる写真を見て、校庭内のどこなのかを探す（防災倉庫、雨水タンク、ソーラー風力発電外灯、堆肥場非常階段） ②そこに隠されている箱の中のキーワードを確認 ③キーワードは11月の防災ミッションでポイントになる。 「情報掲示」 他団体の避難訓練の情報を提供（避難経路、避難場所、状況など）
準備、使用したもの・人材 ・道具、材料等	人材…トラストスタッフ3名、参加児童の保護者10名 道具…防災要素となる物の写真、できますカード
参加人数	約40名
経費の総額・内訳概要	1490円（紙代、文房具）

成果と課題	<p>【成果】①大人の支援者は目的と支援内容を理解し、それぞれ判断して行っていた。 ②思った以上に子どもたちは学校のさまざまな物がどこにあるのかよくわかっている。 ③普段足を運ぶことがない大人も校内のどこに何があるのかを知ることができた。</p> <p>【課題】①それぞれの防災要素がどのような意味を持つのかまで落とし込みができなかった。 ②いつも校庭で遊んでいる小学生たちは一部を見ただけですぐ要素を見つけられるが、そうでないと防災倉庫がどこにあるかもあまり知らない。非常時に必要な物は地域の情報として共有する必要があると感じた。</p>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ② 】※3

タイトル	防災ワークショップ HUG 実施
実施月日（曜日）	7月15日（金）
実施場所	茅ヶ崎市立浜須賀小学校 理科室
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間半
プログラムのカテゴリ、形式※4	ワークショップ
活動目的※5	災害を疑似体験
達成目標	避難所での状況を疑似体験することで、知らないということを認識し、危機感へとつなげる。 防災・減災イベントへの導入としての位置づけとする。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	状況設定：発生直後大津波警報発令。体育館の使用はできない。 校舎の3Fにのみ使用可。ライフライン全てストップ。 ↓ ゲーム ↓ 振り返り
準備、使用したもの・人材 ・道具、材料等	HUGセット。 地図 …共に市の防災対策課より借用
参加人数	8名
経費の総額・内訳概要	200円（紙代）
成果と課題	【成果】311の災害あとであることもあり、シュミレーションすることでより身近なこととして考えることができた。 （参加者の感想より） ・想像していたよりも振り分け、避難者のニーズに対応するのが大変だと実感。 ・個々散々と生活している東京近郊の私たちにとってどれほど大変な避難生活になるだろうかと思った。 ・災害時のシュミレーションができた。命を守ることを第一目標にしないでほしい、と思った。 ・津波想定だと限られた場所をいかに使うか、生きるのに必須の食やトイレは大変。 ・誰が先にリーダーとして力を出すのか、指示を通すのか、普段の地域力。 【課題】・日程の設定・広報が十分でなく、参加人数が少なかった。

成果物

- ※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
- ※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)
- ※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ③】※3

タイトル	浜っ子パーク「砂場あそび」
実施月日（曜日）	7月23日（土）
実施場所	茅ヶ崎市立浜須賀小学校校庭
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	砂場遊びでは、協力・工夫することによる達成感・満足感が高いので、防災教育とリンクさせることが可能
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	スコップの使い方・注意をうながし自由に活動する。 個々の遊び→水の利用→隣の友達と協力し、川で山をつなぐ→全体を観る→液状化実験のような遊び→片付け
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	バケツ、スコップ、大きな衣装箱
参加人数	17名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】一人ではできないことが協力することでできることを知る 【課題】10年間の経験から、砂場と防災の学習を組み合わせることが可能と考えている。専門家との連携が必要。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ④】※3

タイトル	浜っ子パーク「お月見」
実施月日（曜日）	9月17日（土）
実施場所	茅ヶ崎市立浜須賀小学校 校庭
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	①収穫に対する感謝の気持ち、自然を敬う気持ちを養う ②行事を行うにあたり、業務を分担する、分け合う、協力し合うことを知る ③団子を入れる容器を、あるものを使ってつくる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	月見団子を作る人、ススキを取ってくる人に分かれて、それぞれ作業。→お月見のお飾り→お月見クイズ→団子を入れる容器づくり→水を入れたりして実験
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・団子粉 ・お月見クイズ ・用紙 ・サランラップ、アルミホイル
参加人数	19名
経費の総額・内訳概要	2486円（紙、インク等）
成果と課題	【成果】・業務を分担することで自分に対して責任感をもって取り組んでいた 【課題】・水道が使えない、というところまでもっていくことができなかった。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑤】※3

タイトル	茅ヶ崎まるかじりプロジェクト「The サバイバル 2011」
実施月日（曜日）	11月19日（土）
実施場所	茅ヶ崎市立浜須賀小学校 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	4時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	①五感と身体を使った体感と対話を通して一人ひとりが自分の命を守る知識・知恵を身につける。 合言葉…めざせ、釜石！てんでんこ！！ ②地域のゆるやかなつながり 子どもの活動を中心とした団体との情報共有、自治会からの理解、多様な人材との交流 ③茅ヶ崎産の食材利用を促進し、防災力をアップさせる
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	会場設営 ↓ スタッフに趣旨説明 ↓ イベント開始 受付（本部）…対話 ・イベント趣旨説明 ・事前ミッションの確認 ・大人の支援業務振り分け なまずミッション…体感 ※ポイントラリーでゲーム性を持たせ、すべてを体感できるようにした ①「聞く」緊急地震速報、津波警報、大津波警報 の聴き分け ②「距離」歩速で距離を測る ③「高さ」手すりの高さ（3.4m）からだいたいの高さを予測する ④「学校の防災要素」どこかわかる？ヒントより探す。 防災倉庫、堆肥場、非常階段、ソーラー・風力発電外灯、雨水タンク ⑤「困っている人に君ができることは？」簡単な手話を覚えて、コミュニケーション ⑥「トイレ」トイレクイズに答えよう ⑦「サバイバルコース」 ・ペットボトルのキャップを歩く ・毛布タンカ ・ジャッキアップ ・消火器まとあて（雨天のため中止） ・目隠しトンネル



	<p>⑧「時間」5分を体感する 秘密ミッション。緊急地震速報を流し、「地震」を想定。 1分後、大津波警報を流し津波から避難。 体育館から校舎3Fへ。 ※大人だけ開催と避難経路をお知らせし、対応を依頼。</p> <p>⑨「空間」津波から避難。窮屈さかげんを体感。 避難した校舎3Fで地域住人と避難場所の広さから算出した人口密度を体感。</p> <p>⑩「情報」知っここゾーンでクイズに答える 自治会や他団体の訓練の様子、釜石の情報 行政からの情報（ハザードマップ、防災情報URL）</p> <p>振り返り 歩測、高さ調べ、クイズの答え合わせ 体験して発見したことなどを出し合った</p> <p>お互い様プロジェクト …4年3組総合授業とのコラボ</p> <p>①「Tシャツプロジェクトで復興支援」 石巻サポーターズの布ぞうり作りのためのTシャツ集め</p> <p>②「フリマで支援」 会場の一角をフリマコーナーにし売り上げを復興支援に寄付</p> <p>炊き出し …トラストキッズスタッフ おにぎりとトン汁 野菜の切り方、サイズなど地域の訓練でやっていることを 教えてもらう（情報の共有）</p>
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<p>人材 防災リーダー、CSP トレーナー、市のラジオ番組のパーソナリティ、市の防災対策課、測量士</p> <p>道具 他団体からの訓練の様子などまとめたもの（貼りだし）、炊き出し備品、具材、消火器、トンネルなど体験備品、クイズ、</p>
<p>参加人数</p>	<p>約 80 名</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>7012 円（文房具、食材）</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <p>①五感とからだで体感 ・子どもたちは楽しいと感じながらも、5分が意外と短い、見えないって怖い、など五感と体感で自分のこととしてとらえることができた。 ・大雨にもかかわらず、80名もの参加者。思った以上に関心があると感じた。 ・大人も津波の避難場所である校舎の3Fを確認することができた。 ・想定した人口が避難してきた場合の人口密度をイメージすることができた。</p> <p>②ゆるやかなネットワーク構築にむけての第1歩 ・「Theサバイバル2011」実行委員会を立ち上げ、多様な立場の人との連携がとれた。 ・後援：地域の自治会連合会、青少年育成推進協議会など地域の活動団 また大学、観光協会、教育委員会、市。 協力：学童クラブ、PTA、学校、コープ神奈川の地域エリア会、無農薬有機野菜の農家の方。</p> <p>③第三者からの評価</p>

	<ul style="list-style-type: none">・多くの人に活動の内容を知ってもらうことができた。・タウン情報誌、神奈川新聞、ラジオで活動が報告され多くの人に活動内容を知ってもらうことができたのと同時に、私たち自身活動を客観的にみる機会を得ることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・専門家の知識を十分に活用したとはいえない。・
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑥ 】※3

タイトル	浜っ子パーク「おもちつき」
実施月日（曜日）	12月24日（土）
実施場所	茅ヶ崎市立浜須賀小学校 校庭
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新年を迎える準備としての餅つきを通し、先人の知恵や自然に対する畏敬の念を伝える。 ・また地域の大人たちが集まって助け合い、協力しあって一つのことを成し遂げる様子を見せることで、子どもたちがより地域へ愛着を感じることができる。 ・茅ヶ崎産の食材利用を促進し、防災力をアップさせる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ●消防署への火煙発生届出提出 ●前日準備 もち米をといで、水につけておく・備品を揃える ●当日 かまど火起こし→もち米を蒸す→もちつき→みんなで分け合ってお餅を食べる→片づけ ※2kg ずつ蒸して つく ※待ち時間を利用して藁でしめ縄飾り作る。 ※鏡もちを作り、小学校に渡す ※炭は堆肥場に埋める
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>人材：つき手、かまどの火の番は参加してくれた大人。 道具：かまど、石臼、きねなど もちつき備品 材料：もち米（6kg）、しょうゆ、さとう 藁</p>
参加人数	約50名
経費の総額・内訳概要	もち米 400円/kg×6=2400円、しょうゆ、さとう
成果と課題	<p>【成果】・手の空いている大人は手伝ってもらい。知らない者同士が助け合うこと、協力しあうことで地域のコミュニケーションをはかることができる。またその様子を子どもたちに見せることは子どもたちの中にもその機運がうまれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もちがもち米から作られること、そのプロセスなどから一般家庭の日常にはないことの発見。 ・親でも先生でもない大人とのやり取りで褒められたり、注意されたりすることで周りの大人が見守っていることを知る。

	<ul style="list-style-type: none">・かまどを使うことで、非常時に使用できる備品の存在や保管場所、段取りを知ることができる。・入学前の子どもがいる親子連れ、学校の様子を見に来てたまたま参加。こどもは学校への不安が軽減できたのでは？・しめ縄飾りは1月のどんど焼きで燃やすという自然の営みを意識した流れを作り、自然への畏敬の念と防災・減災を結び付けた。 <p>【課題】・単なるイベントへの参加だけでなく、プロセスやさまざまな行程の理由などが十分伝えられたかどうかのフィードバックがない。</p>
成果物	

- ※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
- ※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)
- ※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑦ 】※3

タイトル	浜っ子パーク「浜っ子風どんど焼き」
実施月日（曜日）	1月14日（土）
実施場所	茅ヶ崎の海岸
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・どんど焼きという年中行事を通して、自然への畏敬の念、みんなで協力しあって行うことを経験する ・茅ヶ崎産の食材利用を促進し、防災力をアップさせる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ●事前準備 <ul style="list-style-type: none"> ・竹（だんごをさす）の切り出し、枝落とし ・団子を作る ・県土木課へ海岸使用の届出 ・消防署へ火煙発生届出提出 ●当日 <ul style="list-style-type: none"> 道具や薪の搬入 ↓ 場所決め、穴掘り、火起こし、お飾りの針金などをはずす ↓ お飾り、書き初め等を燃やす ↓ どんど焼き由来のお話し（劇） ↓ まゆ玉（団子）を焼いて食べる ↓ 消火、片づけ
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	薪、竹、だんご（100セット）
参加人数	約100名
経費の総額・内訳概要	1645円（紙、針金、よもぎ粉、上新粉）



成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもたちが穴掘りや、お飾りの針金はずし、片づけなど進んで参加してくれている様子とそれを優しく見守りことばかけをする参加者の様子みて、地域力アップにつながるなと感じた。・火を囲んだゆっくりした時間は大人たちがそれぞれ会話をし情報交換する時間となった。・焚き火をすることがなくなった住宅地域では火の熱さ・怖さを実感できるのは防災の視点からも大きい。・学校でもどんど焼きに合わせて書き初めを返却してくれるなど、子どもたちにとっては歳時記としての流れを理解しやすい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・参加者が親子連れが多いので異世代の層の参加を促す工夫。・茅ヶ崎産の上新粉がない。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： _____】※3

タイトル	
実施月日（曜日）	
実施場所	
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式※4	
活動目的※5	
達成目標	
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	
参加人数	
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 【課題】
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●苦勞した点 <ul style="list-style-type: none"> ・行政からの情報が一般市民には届いていないし、市民も自ら取りに行くほどではない。 ・子どもたちの活動を中心とした団体は社会教育団体からスポーツ・文化団体までいくつもあるが、防災対策について個別に対策しており、相互の情報交換する場がない。 ●工夫した点 <ul style="list-style-type: none"> ・プランと年間スケジュール、グループの活動の目的等がわかるリーフレットを作成し、地域の団体、学校、PTA、行政へ直接説明しながら配布した。 ・施設使用の調整委員会において 茅ヶ崎トラストチームのメンバーが所属している一つのスポーツ団体が行った津波避難訓練の様子を紹介したことで情報の共有がなされた。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●苦勞した点 <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーみな仕事や家事をしながらの活動なので、なかなか思うように時間の調整ができない。伝達情報はメールで済ませることができるが、顔を合わせて話すことで新しいアイデアが生まれたり、状況把握ができる。 ・他団体の姿勢としてプランの内容は理解していただけるが、活動を一緒にやる というところまではなかなかいかない。 ●工夫した点 <ul style="list-style-type: none"> ・防災リーダーのつながりから 有志による実行委員会発足させることができたので、多様な視点からの意見を取り入れることができた。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●苦勞した点 <ul style="list-style-type: none"> ・防災イベント当日は荒天だったので予定を急きょ変更。適宜判断して調整しなければならない。 ・子どもたちや支援者となるべき大人がどのくらい集まるか心配した。 ●工夫した点 <ul style="list-style-type: none"> ・五感や身体をつかった体感にテーマをしぼり、それぞれのミッションの目的をはっきりさせたことで、期待できる効果が得られやすかった。 ・初めて参加する人が支援者になるために分かりやすいマニュアルを作成した。 ・イベントに参加できなくてもチラシからも防災情報がえられるような記述の工夫 ・その場で登録できるように市の防災情報 URL の QR コードを掲示した。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	浜須賀小学校	☆協力 ・校庭・体育館等の施設の貸出 ・チラシの配布 ☆協力 ・浜須賀小学校4年3組有志児童
保護者・ PTAの組織	浜須賀小学校 PTA	☆協力 ・実行委員会への参加 ・印刷等の機器貸し出し
地域組織	浜須賀地区自治会連合会 浜須賀小学校区青少年育成推進協議会	■後援 ■後援 ・中学校の生徒会からペットボトルのふたを借りる。
国・地方公共団体・ 公共施設	茅ヶ崎市（市民自治推進課） 茅ヶ崎市（防災対策課） 茅ヶ崎市教育委員会（社会教育課）	■後援 ☆協力 被災地の写真 ジャッキアップ ■後援
企業・ 産業関連の組合等	茅ヶ崎市観光協会	■後援
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	FC浜須賀 平和スポーツ少年団 三つ丘スポーツ少年団	☆協力 ・安全マニュアルの貸出 ☆協力 防災マニュアルの貸出 ☆協力 津波訓練資料の貸し出し
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	文教大学湘南総合研究所	■後援 ・アドバイス

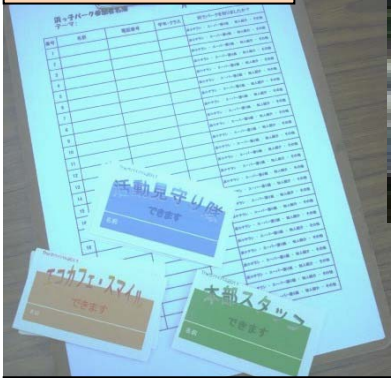
6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>①いろいろな団体にプランの説明をし理解をいただけた。団体として協働で行うことはできなかったが、一部訓練の様子を他団体に紹介するなど、情報の共有が図れたのは成果といえる。</p> <p>②今まではPTAと共催することはあったが、初めて実行委員会を発足させ、多様な立場の個人が多様な視点で関わってもらうことができた。そのことは次への大きなステップとなる。</p> <p>③イベントの中の「聴く」ミッションで「もしかしたら君が一人の時にこれが鳴るかもしれないよ」と加えることで聴く姿勢が大きく変わった、と報告があった。 自らのこととしてとらえることで、受け取り方が大きく違ってくる。このことは今後の活動にも活かしていきたい。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>●反省・課題</p> <p>①どの位伝わっているかの振り返りが十分できていない。 ②専門家の知識をもっと活用する。</p> <p>●感想</p> <p>私たちの住む地区は海のそば、住宅密集地、新旧の人たち、若い人からお年寄りまで幅広い層が混在している、地域のコミュニケーションをとる場がない、など大きなリスクを抱えている町である。 しかし、この町が好きで移り住んでいる人や住み続けている人も多い。</p> <p>多世代、多様な立場の人たちが集まり情報交換、情報共有しそのリスクを知ること。そしてそれをどう回避するのか対話を通して知恵を出し合い、解決の糸口を見出していく。そのためのゆるやかな「場」を「ありがとう」「おたがいさま」「もったいない」「わけっこ」のキーワードでつないでいきたい。今回のチャレンジプランの一連の活動を通して、その「プラットフォーム」の構築の必要性を広げることが可能と感じている。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>①毎月の体験・遊び場を情報共有の場として「浜っ子パーク」の継続する ②防災・減災イベントもさらに発展・精度をあげたものにして継続 これらを継続することは、災害を風化させないことにもなる。 ③イベントをパッケージ化し、いつでも、誰でも、どこでも開催できるようにする</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

6月 宝探し



まずは、ごあいさつと趣旨説明



宝探しのヒント写真

大人は支援者として。
できますカード (見守り、エコカフェ、本部)



他団体の訓練を紹介します

7月「すなあそび」



液状化を再現しようとしてみたが、うまくいかず。
ソーラークッカーではパンが焼けた。



役割分担
ススキ班と団子班

9月「お月見」



非常時にも役立つ紙の器 作成中

茅ヶ崎まるかじりプロジェクト
「The サバイバル 2011」
～めざせ、釜石! てんでんこ!～

本部にて受付
目と目を合わせ、丁寧な対応



雨なので非常階段
下で。でも、会場
から離れていたの
で不便。



警報の聴き分け



防災対策課によるジャ
ッキアップの説明

地震、発生!



歩幅計測中
身体で距離を測る



3Fへ避難中



地域住人が3Fに集ま
ったら…
80人だと7㎡の計算

座れない…

時計の高さ
を予測



他地域の訓練の
様子



情報の共有



振り返り
答え合わせ
気付いたこと

(自由記述: 1/3)

(自由記述: 2/3)

12月 おもちつき



伝承



できる人にできることを
お願いします。

いろいろな人が集う「場」

1月 どんど焼き



釘で穴をあける
ちょっと危ないことの経験
が大きな安全につながる



待ってる間のおしゃべり



立派な作業の
担い手

浜っ子パーク

遊び (仲間・空間・時間)

「五感と身体感覚へのこだわり」
「対話へのこだわり」
「多様な専門 (知) へのこだわり」

The サバイバル
2011

知識創造空間

「体感プログラム」
「ブラインド方式」
「遊び・学び・助け合い」

(自由記述: 3/3)